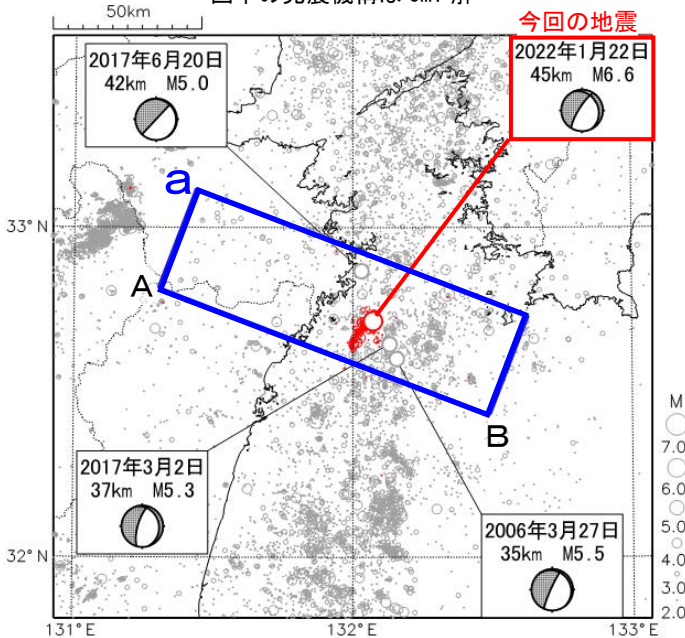
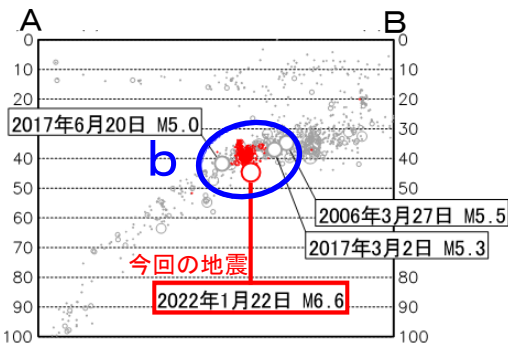


# 1月22日 日向灘の地震

震央分布図  
(1994年10月1日～2022年2月3日、  
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$ )  
2022年1月の地震を赤色○で表示  
図中の発震機構はCMT解



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



震度1以上の日別最大震度別地震回数表  
(2022年1月22日～2月3日)

月日	最大震度別回数						震度1以上を 観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	回数	累計
1月22日	22	6	5	0	0	1	34	34
1月23日	3	1	0	0	0	0	4	38
1月24日	1	0	0	0	0	0	1	39
1月25日	0	0	0	0	0	0	0	39
1月26日	1	0	0	0	0	0	1	40
1月27日	1	0	0	0	0	0	1	41
1月28日	0	1	0	0	0	0	1	42
1月29日	0	0	0	0	0	0	0	42
1月30日	0	0	0	0	0	0	0	42
1月31日	0	0	0	0	0	0	0	42
2月1日	1	0	0	0	0	0	1	43
2月2日	0	0	0	0	0	0	0	43
2月3日	0	0	0	0	0	0	0	42
総計	29	8	5	0	0	1		43

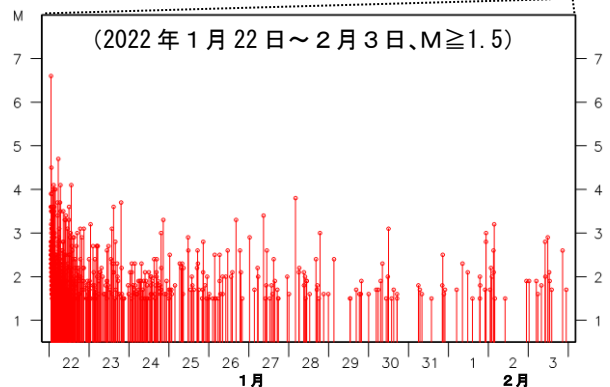
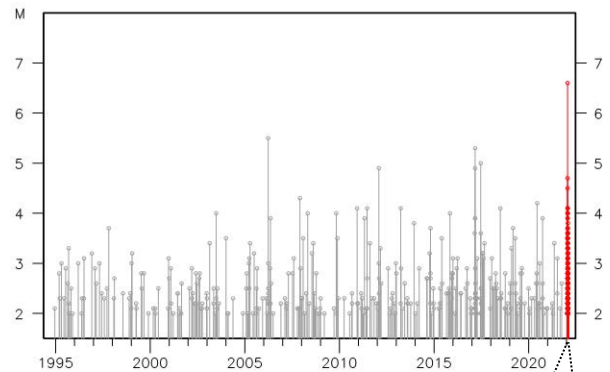
2022年1月22日01時08分に日向灘の深さ45kmでM6.6の地震(最大震度5強)が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。この地震の発震機構(CMT解)は、西北西-東南東方向に張力軸を持つ型である。この地震の発生直後、地震活動が一時的に活発となったが、地震回数は減少してきている。なお、2月3日までに震度1以上を観測した地震が43回(震度5強:1回、震度3:5回、震度2:8回、震度1:29回)発生した。

今回の地震により、負傷者13人、住家一部破損1棟などの被害を生じた(1月31日現在、総務省消防庁による)。

気象庁は「気象庁防災対応支援チーム(JETT)」を大分県庁に派遣し、地震活動・気象状況の解説を行うなどの支援を行った。また、1月22日に「気象庁機動調査班(JMA-MOT)」を派遣し、震度5強を観測もしくは推計した震度観測点(9地点)について点検を実施し、観測環境が地震によって変化していないことを確認するとともに、周辺の被害や揺れの状況について確認した。

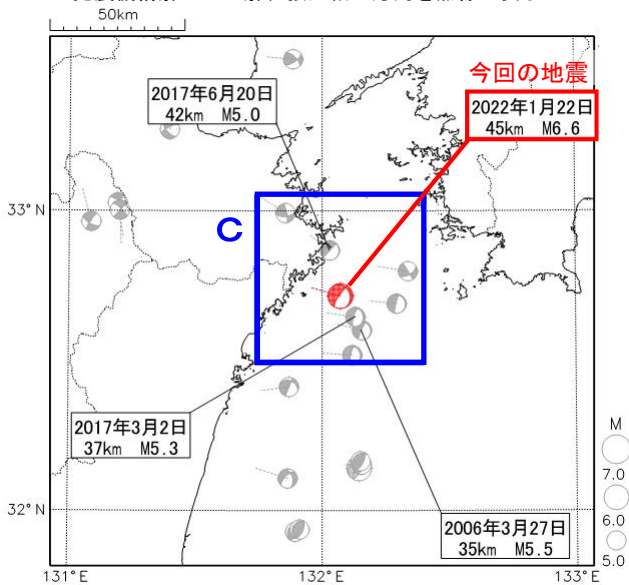
1994年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)ではM5.0以上の地震が3回発生している。このうち、最大規模の地震は2006年3月27日に発生したM5.5の地震(最大震度5弱)である。また、2017年6月20日にはM5.0の地震(最大震度5強)が発生している。

領域 b 内のM-T 図



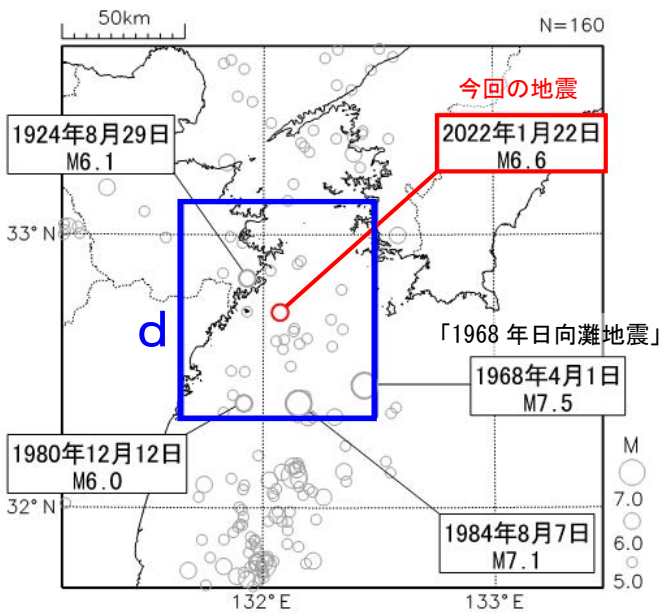
気象庁作成

**発震機構分布図**  
 (1994年10月1日～2022年2月3日、  
 深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ )  
 2022年1月の地震を赤色で表示  
 発震機構解はCMT解、張力軸の方向を点線で表示



今回の地震付近（領域c）で求められた発震機構解（CMT解）をみると、概ね西北西－東南東方向に張力軸を持つ型が多い。

**震央分布図**  
 (1919年1月1日～2022年2月3日、  
 深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ )  
 2022年1月の地震を赤色○で表示  
 領域d内のM6.0以上の地震に吹き出しを付けた



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域d）ではM6.0以上の地震が4回発生している。1968年4月1日に発生した「1968年日向灘地震」（M7.5、最大震度5）では、負傷者57人、住家被害7,423棟などの被害を生じた（「日本被害地震総覧」による）。この地震により、大分県の蒲江で240cm（最大全振幅）の津波を観測した（「日本被害津波総覧」による）。また、1984年8月7日に発生したM7.1の地震（最大震度4）では、負傷者9人などの被害を生じた（「日本被害地震総覧」による）。この地震により、宮崎県の延岡で28cm（最大全振幅）の津波を観測した（「日本被害津波総覧」による）。

**領域d内のM-T図**

